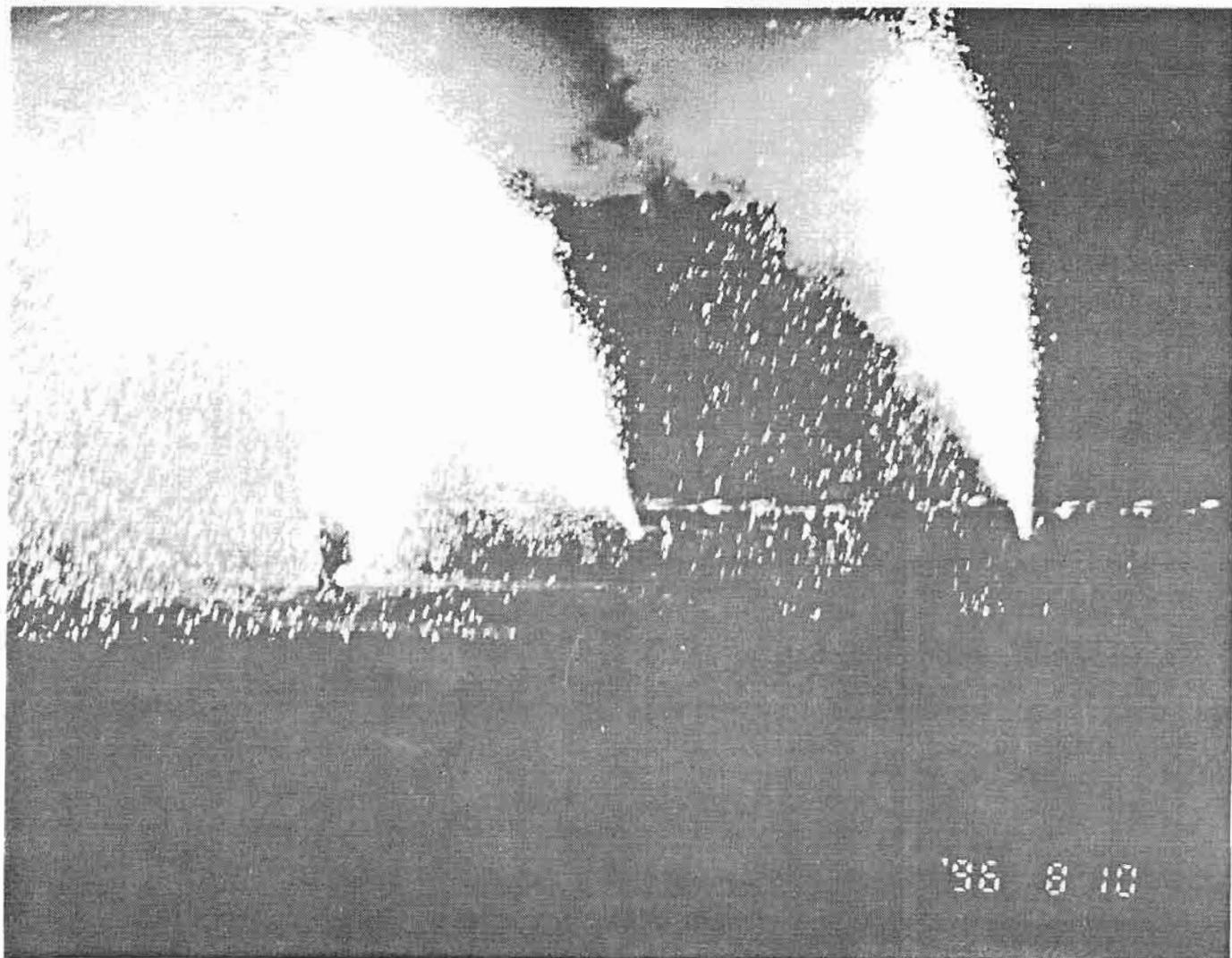


中川根ふる里通信

= 第42号 =

編集・発行 モアラブ中川根
連絡先 〒428-03
静岡県榛原郡中川根町上長尾
859-6
中川根ふる里通信係
TEL 0547-56-0015
郵便振替口座 00870-4-81356



8月10日、大井川 高郷前広場にて
“商工会夏まつり” 手筒花火！

遠い日の思い出

平成五年
六月十九日 日記

大正十年八月

八月に入り、学校の夏休みになると間もなく、兄さんが迎えに来てくれたので、又々故里へ帰る。これにて喜んで家を出た。大正十年又か蒲村駐在所・蒲神明宮(現・浜松市指監町)に居た時である。

金谷で汽車を降りると預けておいた自転車をひいた元さんと並んで歩いた。朝、家を出る時は、うす曇りの暑いぬい日だったので、地蔵峠あたりからボッケと降り出した雨は次第にひどくなり、麓の福用あたりからはもう滝の様な、今でいう集中豪雨というのであろう、手に持つ傘も用をなさずぶ濡れて、兄さんは荷物をのせて真新しい自転車を押し、私は肩にかけた鞄を前に抱いて歩いた。

ヨコカレは高井前に道があるので上長尾・水川間では
とちやかく思われます。

道を川の様に流れる水の力を夢見て歩いた。雨足は少し衰えず、まるでぶちまける様なすごい降り。でも、やつと家山川岸までたどり着いてみれば、常日晴天続きの時は堤のない石だらけの、うちはもう川幅一ぱいの濁流となって大井川へ流れ込んでいた。

兄さんは「やっ、こりやあひといなあ」と立ち止まってしばらく見ていたが、「仕様がない渡って行くか」と度胸をきめると、自転車をかついで、「さあ藤一しつり手をつないで離すなよ、流されるなよ」と、私の左手をしつかり握り、自分が川上側になつて濁流に踏み込んだ。流れは早い。石が足にぶつかって。「それ、頑張れ、離れるなよ」と、一步二歩を踏みしめ乍ら、私はもう流れまいと、しつかり手をつないで渡る。自転車の重みの助けか、股下までの急流を兄さんのかけ声と共に必死の思いでやっと渡り終えた。

今はこの川にも立派な橋が出来て、自転車どころか自動車の通行もはげしいが、当時は水の流れのない川原道であった。「この水じゃあ、地名の渡しも駄目すらよ」との話で、その日はここに宿泊した。坂の途中の東側の宿だったと思う。今は有るかないか。

翌日もまた雨は止まないので、自転車は宿にあづけて出發した。大井川は川幅一ぱいの大出水、雨ははげしく降りつづく。抜里を過ぎ、石風呂まで来てみると、対岸地名への渡舟はない。「しょうがない、藤川まで行くか。ここで吊橋を渡ろう」と、ヒの位の道のり



か知らぬが、又びちやびちやと歩く。途中久野脇の姉さんの家へ寄つて昼食を御馳走になる。「えらいこんなあ、これが藤川まで廻るじやあ。地名はすぐ前、見えてらあえ。」と氣の毒がるやら残念がるやら。「気をつけて大事に行けよ。」の声にはけまされて雨の中を又歩き出した。

下長尾か上長尾か覚えもな、が、そのあたりの山道でナギに行き当つた。今崩れたばかりうしくはるか上の峯から土石まじりの泥水が道路を巾三メートルばかり押しつぶして、直下の大井川へ崩落している。途中から道連れになつた男の二人と計四人、行きづまつて相談した。

「や、い、これじやあ通れんなあ。上へ登つてナギを越すか。」

「いや、とにかく、泥流の横に添つて雜草、木の枝につかまって登りはじめたが、私は途中息切れで動けなくなつた。道連れの二人は山を登つてナギの向う側を降りていったけど、私達は仕方なく、又、もとの地点に戻つてみると、運よく杉か松の切株や木の枝が道のくずれに引かかっていた。

兄さんは荷物をしきり背にしばりつけ、「いいか、俺が先に飛び越すから気をつけ渡れよ。」と、木の根に足をかけて「オーッ」とひ越した。と、その動きで背負つた荷物がふり落ちた。「アーッ」と云つて兄さんが振り向いたら、幸い荷物は木の根にからんでいる。兄さんはまだザライ流れ落ちる泥水の中から急いで拾いあけた。「よし、助かった。さあ飛んで來い。気をつけて……」私も木の根につかまつて恐るおそる足をふみしめて、やつとの事でこの難所を越すことが出来た。

雨は降り止まず、びしょぬれで歩きづづけ、とうとと流れれる大井川の上にかかり、風にゆれ動く藤川の針金橋を渡つたのは、この日の夕方だつたと思う。或は降りしきる

雨と両岸の木立のために薄暗く感じたのかも知れないが、そしてその夜は橋の近くの遠い縁籍に当ると、う（店のおばさんの里とか）宿にとめてもらつて、翌日、暴風雨後のカラリと晴れた日、川の東岸駿河路を南下してやつと我が家についた。

その日の母や姉の様子、言葉など覚えもないが、三月がかりの難行にこそ驚いた事だつたろう。今なら琢美か美江子と自動車でたつた一時間と四十分の所なのに、七十余年昔の話。地名には電燈もなかつた。

その電燈、夕方になると村内に発電所へ近い方から順次村内へついてゆくのを子供達が、わざわざながら追つて行くのを見たことがあるが、或はその年か、その翌年あたりだつたろうか。

発電所と云つても、それは電力会社のではなく、島田にあつた東海パルプ会社の専用の発電所だつたから、たぶん、地元というので特別地名地区だけに供給してもらつたのではないか。

この発電所は地名地区の北の峠下をトンネルで大井川の水を南に導水し、大きく曲流した南側へ落して水力を発電していた。その後、昭和のはじめ篠間渡に発電所が増設されたのだが、戦後に川口（島田市）まで導水して大きな発電所になつてからは、地名の水路も埋められて建物だけは残つてゐる。何に使われてゐるのか、知らぬがレンガ造りの今は貴重な記念の建築物であろう。

浜松市将監町在住

栗原 藤一

一終一

現在(平成八年)よう七十五年前の大井川沿いの村々の様子が
思はれます。

境川に蚕が乱舞

今年の六月中旬から下旬へかけて、瀬沼と平谷の境川に無数の蚕の乱舞が見られました。最も盛んに舞った六月二十日前後には、数百匹とも思われる見事な乱舞でした。

最近各地で人工飼育による蚕復活の風景が見られますか、この境川の蚕は全くの天然の乱舞です。

昔は各地の水田や水辺に蚕が舞うのは自然の風景で、夏の夜迷い蚕が家中まで飛んで来て、蚊帳に止って光るなりしたのも懐かしい思い出です。しかし昭和三十年代になつて稻作に有機磷剤が用いられるようになってから急速に減り、更に水田の休耕・転作から休止となつて殆んど稻作が見られなくなると共に蚕も全く姿を消してしまいました。

四、五年前でようやく境川ダム上流の西之渡へ行く途中あたりに、ほんの数匹蚕が見られるようになり、年毎に殖え昨年は可成りの数が見られました。これはたまたまダムサイトに出来た水溜りが偶然に格好の生息条件を満たした結果と思われます。残念ながら今年はその附近で土木工事が行われたため減少してしまいましたが、又来年は殖えるものと期待しています。

一方、平谷の境川橋（町道平谷三津間渡）付近にも蚕が見られはじめたのも三、四年前からでしきり、それが次第に殖えて今年は

数百匹ともみられる大乱舞になりました。更に更に三津間と瀬沼間の国道473号境川橋（昔の往還橋）付近にも同じように蚕が見られるようになります。今年は平谷の境川橋付近をしきり大乱舞となり、夕涼みにてう近在からも見に来た人も多かったです。

この様に蚕が殖えた現象は、自然条件の回復にもあると思われますが、大きな原因として境川に水が蘇った事と思われます。

去る昭和六十三年四月に中部電力との水利権更新にあたり、大井川堰郷ダムから毎秒五トンの放水が実現しましたが、同時に境川ダムも毎秒〇・〇四トン（四十リットル）の水が常時放水されるようになつたとの事で、その清流が永年停滞して死に川になつていた境川に生氣を呼び戻し、適当な腐葉巣養状態となつて蚕の復活繁殖となつたものと思われます。

蚕の乱舞が見られたのは、平谷の町道境川橋ヒ、その上流の国道境川橋付近ですが、実際には境川ダムの下流全域にわたつて繁殖しているものと思われます。川全体が小喬木や大きい雑草が繁茂していく容易に入られないで確認は出来ませんが、国道境川橋の上流三百メートル程の山ノ手にある家に今年蚕が二、三匹迷々込んで平たとつことです

いります。いずれにしても、大量の蚕が故里瀬沼・平谷に乱舞したということは大変嬉しい限りですし、自然と親しみ気持ちから、それをこれまで生息形態を維持しつつ近隣の多くの人達に見てもらつえろ



カワニナ = 川巻貝

淡水産の巻貝。貝殻は円錐形で細長く3cm内外で殻頂部が欠損していることが多い。殻表は黒褐色または赤褐色。

肺臓シストマ、横川吸虫の第1中間宿主。北海道南部から台湾までの河川・湖沼にすむ。

——巣の幼虫の食べものはカワニナといわれ、カワニナが育たなければ巣も住めない。

中川根町も全国へ
情報流しております。

ご利用下さい。お便りも
お待ちしております。



WWW中川根町にようこそ

緑ある、人と文化の輝く町
チャレンジタウンなかかわね

まずはみつけなきや！中川根町はこのあたり

| World Map | Japan Map | Shizuoka Map |

1 中川根町 見晴らし MAP

2. インフォメーション = アクセス、祭り、文化財、特産品、民話の里。
うちわの話。

3. アウトドアガイド = キャンプ場ガイド、宿泊施設、ハイキングガイド、
つりMap。

4. ティールーム = 受賞歴、お茶の飲み方、お茶の効能、茶茗館、リンク集、四季の里。

5. リンク情報 = 周辺市町村 行政ネット、など。

発信元 中川根町役場、総務課、森下育昭 TEL. 0547-56-1111

e-mail nkawane@fuji-mt.or.jp

FAX. 0547-56-1117

URL名 <http://www.fuji-mt.or.jp/nkawne/>

もうひとついと一同話してあります。

音、瀬戸の杭田んぼに一杯巣が
舞つた頃を思ひ浮かべながら

平成八年八月記

瀬戸
杭田
幸男

余録

巣のこと。

巣の幼虫の食べもの“カワニナ”？



NAKAKAWANE ON LINE



ダイラボッちのたもと石

東京のかたすみから (15)

○○ テレビの始めから終りまで、
フライングは怖い

渡邊 實夫



な重大なミスと言わざるを得ず、こんな非難攻撃を受けても致し方ないことである。

私がはじめて報道現場に配属された時、テスツの副部長から「今これは事件にならないまま報道管制が解けたが、報道管制が敷かれると大変なんですよ。」と聞かされた。

これは、アトランタオリンピックの百メートル競走で、早く飛び出し過ぎて、フライング失格となつた金メダル候補のイギリス人・クリスティ選手の話ではない。

昨年八月九日、左のようは「NHKフライング」という記事が新聞に報じられた。ようするに、NHKが報道協定により未だ放送してはいけない報道管制中に、優佳ちゃん誘拐事件の警察情報を間違って流してしまったのである。

それでも結果としては、優佳ちゃんが無事救出されて報道関係者をほつとさせた。報道マンとしては基本的

放送は出来ないが、中継車や要員を準備し、いつでも出動態勢をとつて、他のテレビ局に負けないようにスタンバイしていくなくてはならぬ。更に、事件が解決し管制がとかれると、大事件の場合には緊急特別番組を組むことになり、特番の企画・進行、出演者に出演交渉、スタジオや要員の確保などのほか、静岡朝日放送などのネット系列局を含めて、当日放送予定番組の変更の了解やスポンサーへの問合せ…その特番のスポンサーになつてくれるかどうか…、降りる場合は他のスポンサー探しと交渉など大ことになるのである。

さて、私は管制と聞いて灯火管制を思ひ出した。敗色濃い太平洋戦争の末期、敵機襲来の警戒警報が出たら、攻撃目標とならないよう直ぐ電球に黒い袋をかぶせよ。と言われ、未だ小学生だった私は中川根の山奥の中尾の一軒家で、言われた通りにまじめにやつたものだ。

管制という言葉が未だ生きていたのかと奇異にも感じた。この管制にはいくら気を使つても使い過ぎるものではない。ところが、のちになつてよく理解できましたが、手ぬきのできない実に厄介なものである。

まだ忘れられないのが、昭和三十五年五月十六日発生の雅樹ちゃん誘拐事件で、「新聞報道の翌日十八日に犯人は新聞を見て追いつめられた気持ちになつて雅樹

を連れていた。

新開電視 平成7年8月9日

NHKラジオ
「フライング」

■ NHKの説明によると、アナウンスが流れたのは同日午後六時から始まる全国中継の「ラジオ太田」の中継で、同三十一分三十分から二分半の間に、相模のニュース番組の中で誘拐事件が、同説明開始前の八時四〇分以降オペ第一放送のニュース番組の中で誘拐事件が起きたことが取扱われた。

■ NHKでは「放送の会場は、お伝えします」と読み上げる。この部分で放送者が「お伝えします」と読み上げることで、

ちゃんを殺害した」と言う手記を東京地裁が公開している。当時は誘拐報道に関するなんらの基準もなかったため、各マスコミは激しい競争を展開し、犯人の要求・捜査状況などが逐一報道された。

この反省・教訓から、人質の人命尊重を最優先し、犯人を心理的に追いつめないようとの配慮から、昭和三十五年六月に警察当局と報道機関が報道協定の前身とも言いうべき方針基準を決定し、一定期間取材と報道を自粛しようと言う報道管制を数くよになつた。

実は、この報道管制中に、われわれテレビ朝日のスタッフもプロヒしては恥ずべき失敗をしてしまったのである。

今から十六年前の昭和五十五年三月、「長野・富山・岐阜にまたがる広域連続誘拐殺人事件」が発生した。犯人宮崎知子は長野信用金庫に勤務していた寺沢由美子を、長野市内で三月五日に誘拐し、翌日六日、「身代金三千円を姉に持たせて長野駅に来い。警察にもうしたら終りだよ」と脅迫電話をかけてきた。父親は二口番に通報した。

犯人は長野駅の構内放送で、観光案内所へ姉を呼び出し電話で確認、姉は「十万円持つて来た」と返事。犯人は「そんなはした金ではためだ。明日七日午後四時迄に二千万円を持ってこい。翌日身代金を持参した姉を再びこの案内所へ電話で呼び出し、「金を持って四時三十八分発のあさま十六号の六駆目に乗り高崎駅で降りよ」と指示した。

列車が高崎駅に着いて間もなく、こんどは高崎駅の案内所へ呼び出し、「駅前通りの喫茶店・ボンテに入れ」、ボンテで待っていると八時四十分更に「近くのレスト

ラン・ナボリに移れ」と指示して來た。そこで待つていたが犯人は現れず、とうとう接触できなかつた。犯人は事前に高崎駅前を下見しており、身代金受渡し場所を、次から次へと変えて様子を窺つていたが、報道機関の動きから危険を感じたので、姿を現わさず逃げてしまつたのである。

われわれは、犯人が逮捕されれば報道管制が解かれるので、即座にテレビ中継が出来るように、その準備のために中継車や要員を高崎駅周辺に集結し、待機していたが、高崎の三月初旬の夕方は冷え込みが厳しく、報道関係者は暖を採るために駅前喫茶店に入つて待つていた。そこか犯人の指定した喫茶店とはつゆ知らず、テレビ局のジヤンパーを着たままだったるのである。犯人はさぞ驚いたに違いない。

後で、警察当局から次のようない話を聞かされた。犯人は取引場所の喫茶店に報道関係者を見、更に中継車らしい車も見て、既に警察に通報したものと思い、身代金を受け取らずに怒つて長野へ引返してしまつたものである。一方報道陣は犯人が近付いたことにも気付かなかつた。

NHKのフライングミスとは違うが、犯人の逃げようとする真剣さに比べ、報道機関にたずさわる者の初步的ミス・氣のゆるみが招いた行動だったと事件後大いに反省した。

事実は、われわれのこのドジな行為の一日前の三月六日、既に人質由美子さんは可哀そうにも殺害され、山中に遺棄されていたということがあつて判つた。報道管制と言えば、この種誘拐事件の他に、おめ

携帯電話考 川根路不用論



3月頃の講演会にて講師の先生おっしゃいました。

「島田からの道で、携帯電話通信を試みたところ、川口付近で通話不能となった。都市部と山間部で不平等ではないだろうか。なるほど」とも考えてみました。

——来年には、こちらにも電波が飛び施設が出来るとNHKテレビクロースアップ現代にて、「走行中の携帯電話事故多発」を見て考えました。電話に気を取られて視野がせまくなつた為の事故との事。電話の内容によつたら、思考力も低下して、ヒツジの判断をばらすかも知れないと。ドイツアウトバーンでは、250km/hスピードで、運転者が高談のやりとりをやりまくっているという。時にはメモを取りながら。川根路は国道にしても、県道にしても、前方、後方すれちがい等充分気を使って走る道、そして車窓の景色を見る道、楽しい家路に帰る道、携帯電話の入る余地あるのかな。

昭和天皇陛下（崩御）報道協定、および不特定多数の人命をねつづた兇悪なブリコ・森永の恐喝報道協定などがあつた。

最近でも報道管制を敷かれることは数多くそれが事件となつて立消えとなるもの。手がかりつかめず、民間の協力を得るために公開捜査に踏み切るものなどさまざまあると聞いています。

参考文献『斎藤充功著、誘拐殺人事件

一九九六年八月十八日記

中川根の空を
見るさて夜話

初めて飛行機が飛んだ時

原田耕作



「大正八年八月三十日、中川根の上空を初めて飛行機が飛んだ」この記事は平成三年発行の郷土史に私が書いた「中川根の空を初めて飛行機が飛んだ時」の冒頭の文言でした。これは今は古い村の古老に聞いた話で、それを信じておつたが、その後になって私自身の記憶を良く出つてみて日が違つていたことに気が付きました。

初めて中川根の空を飛行機が飛んだ日は、八月三十日ではなく、夏休みが終つた九月一日か二日、学校へ通学を始めたばかりの日で私が小学校四年生の時だった。と言ふことにはつきり記憶によみがえります。

ふる里通信に訂正した記事を書きますが、郷土史につきましても必要に応じてはつきりしないと思つて居ります。

下長尾小学校の校門を出て、だらだら坂をくだり、下長尾の村なかの街道へ出たところで山田屋の徳さんと、野口屋の涼十さん達が集まつていて、私共に、「お前う、今日飛行機が通つたぞ知つていいから」と言うのだった。

私共は全然知らなかった。

大正八年九月一日か二日（一九一年、七年前）中川根の空高く東から西へ横切つて飛んで飛行機はフラン



ンス陸軍のマルタン軍曹だったにとどくと後で知った。
その日、飛行機の機影を見た者は極めて少なく、爆音を聞いた人々の間に様々な珍談が生まれた。

多くの人々が「山の神様が怒ったにちがいな」と言つて、おそれおののく人があつたといつ。山国の空を飛行機が飛びなどとは夢にも思つた、とのない時代だったから無理からぬことだつた。

然し中川根の草山の人々は「蕎麦蒔きの最中」だつたが、軍隊帰りの山本嘉助青年から、「あの音は確かに飛行機だ。今に見えるかも知れないぞ」と知らされて、半信半疑空を仰いでキヨロキヨロして、いた目にやがて一点の黒影が映つた。

天空高くゆっくり東から西へ動いて行く黒い影を見て「アレが飛行機だ」と嘉助青年からおもえられた。村人は「蕎麦蒔きどころではない。」オーケー、飛行機だ。飛行機だ。」と叫んだ声に、びっくり仰天。火事はどうだ?と飛び出したとしよりもあつたと言う。機影はゆっくりと爆音を引いて山かけへ消えたが、見ていた人達はホーと溜息をついて直ぐには蕎麦蒔きが始まらなかつたと言う。

その時、私の村瀬沢平谷ではどうであったか。中の原この老婆は熊蜂の大群が押し寄せてくると思つて、青くなつて近所の家へ逃げ込んだ。その家にはおかみさんが一人子供の守をしていたが、おかみさんもびっくり戸を締め切つて、爆音が消えるまで二人でふるえていた。という笑い話がある。

平谷のK青年は河内川(境川)で鰻の穴釣りをやって居つて爆音を耳にした。こりやてつたり茶工場の空金が鳴る音だと思い、気味悪いがためようと付近の茶工場へ行ってみた。しかし茶工場はひつそりかんとしていた。若いK青年の頭にも飛行機のことは浮かんではこなかつた。

三四日経つて村の松永医院へ国民新聞が届いた。新聞を東京から郵便で取り寄せてゐる家は村で松永医院一軒だけ。私の文は松永医院から新聞を借りては読んだ。その新聞に「フランス陸軍のマルタン軍曹日本の空を飛ぶ」と出て居た。

熊切村(現春野町)のある所では山の神様の怒りを鎮めようと部落總代の家へ集まり強飯を炊いて氏神と山の神に供えてお参りしたと言う。又ある村では信神者に伺ひを立てたところ、「世の中が変る前兆だ」と言つた。どう。どんな世の中に変るか知れないが、自分等の身自分等の村に異変が起らない様くれぐれもお願ひして帰つたと言うことである。

その後確かに世の中が変つた。飛行機の音は文明の夜明けを告げる音だつた。信神者もまんざら嘘を言わなかつた、と後日の笑い話になつたと言うことである。

ふるやと夜話 第十五話 終り

余録 原田さんの夜話を書きながら、宮崎駿氏のアニメ「紅

の豚」の飛行ミートを思い浮べました。そして牧野原の静岡空港のこと、そして場所はすこしがりますが、大井航空隊のこと、これから十五年先、又、時代は変わるのでしょ。うね現在、中川根上空は、飛行航路(一般)からはずれ、専ら自衛隊機が飛んでいるようです。

7月 14日 平谷の流したい (焚)

23日 水川愛宕地蔵おまつり (阿弥陀堂内鎮座)

30日 徳山愛宕地蔵おまつり (ナンマイター)

8月 9日 千手觀音おまつり (上長尾智滿寺)

10日 第1回商工会 夏まつり (高郷前大井川河川敷にて)

15日 徳山浅間神社おまつり (徳山の盆踊り)

16日 下長尾 百ハたい

9月 15日 藤川大井神社 下泉八幡神社おまつり

8月 11日 「県民の日」協賛事業 「水の郷百選」認定記念

「なかかわね・昔・今・いれ大井川」茶若館・大井川

8月 21日 「県民の日フェスティバル in SHIDA HAIBARA」

— 金谷町夢づくり会館にて —

① 村上不二夫トークショー

② 伝統芸能等披露 金谷町 「金谷大井川川越し太鼓」

中川根町 徳山の盆踊り (ヒーヤイおどり、鹿人舞)

ふる里 夏まつり
燃えました

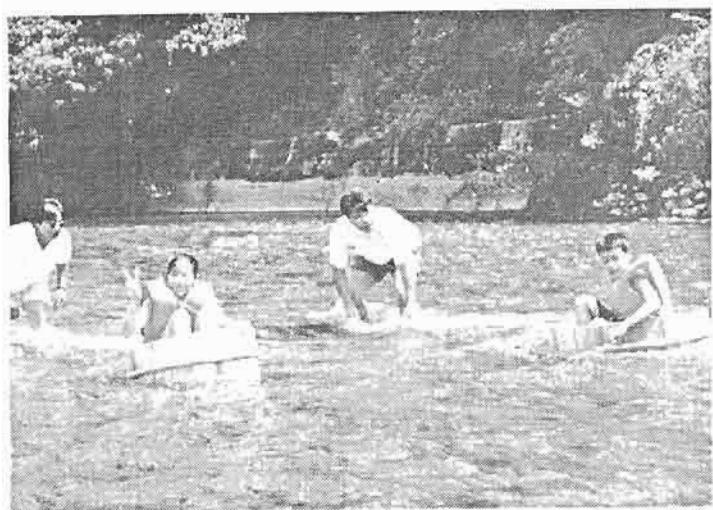


島田の智満寺の觀音さまと兄弟(姉妹?)
との伝説を秘めた千手觀音菩薩。
里へおわして何百年、世の移ろいを
しつゝながめておられます。

夏休み、特にお盆前後、ふる里は大勢の人々が訪れて
なかなかの賑いとなりました。国道362号も県道も車がひ
っかりと通ります。数年前迄は、子孫、兄弟(姉妹)
帰省組が主流でしたか、この節はアウトドアアマリーの
キャンプも盛んになってきました。町内四ヶ所のキャンプ場は
満員でしたし、行く所がなくて大井川や支流にテントを
張つておりました。(増水等で危険)設備の整ったキャンプ
場ですので、大変好評です。

その様な中、地域の人々の樂しまは昔から近々と続いて
いる神社やお寺、お堂のお祭りがあることと、第一回商
工会夏まつりの様な新しい企画など、いづれも夕方から
夜にかけて日中の暑さも忘れて、まつりに興じる、とで
あります。

徳山の盆踊りは、県教育委員会の保存ビデオ撮影(県
下文化財でも早い方)もあって、数日前よりテレビクルーが
来たり、当日、雨上りにもかかわらず、大変な人出となったり
ようです。さすが国指定無形文化財といったところでしょう。



* 第一回中川根町商工会夏まつり

十年ほど前より大井川清涼祭が青年団主催で行なわれておりますが、青年団も無くなりさみしくなつてゐたところ、商工会が青年部を中心に行なつて盛大に行なわれました。

メインは手筒花火と赤石太鼓、打ち上げ花火、手踊り、夜店と大変な賑わいとなりました。手筒花火は三ヶ月町の保存会の皆さんで自製自演、「何回やつても始まる前は胸が高鳴り緊張するんですよ」と言つておられ、赤石太鼓(本川根町の皆さん)との競演は、炎と響がマッチし闇を焦げました。(表紙参照)

* 「なかかわね・昔・今・in 大井川」

国道362(静岡から春野天竜方面)は町を北から

西へ貢りでおりますが、それ

に似たところに古代から近代まで東府中(静岡)方面西森方面への国府道があり、東海道と表街道とすれば裏街道がありました。そして徳山水川間は「天下の大井川を渡る」重要な場所となっていました。

古代から中世まで大井川两岸の村々に交流が無

かったと言ふことはないと考えますし、渡し舟や吊り橋が諸方にあつたかも知れませんが、江戸時代に入り、大井川は徳川幕府の外堀、関所、川狩りなど重要な役目を負つてしまい、通舟、架橋の禁止ということがなつてしまひました。

東海道島田宿と金谷宿の間の大井川、川越し制度はあまりに有名ですが、そのほか、上流で廻り越し、下流で下瀬越し、(人や馬が歩いて大井川を渡る)は度々行われていた様です。(渡渉する場合は、その場所ははつきり定められていて、川越人足の手を借りないで渡る)とは、相撲の関取以外はかたく禁じられていましたと言つうが)

大井川は水量(流量)の多い川であったから、歩行越しは現実には不可能に近かつたようです。この場合、舟で越すことは許されないので、舟に代わる手段として利用されたのが「桶」(桶舟)であった。これを「桶越し」といわれたようです。

正島(徳山)徳山間は山間部
国府道(別名秋葉街道)ですから

樽舟の運行が許されていました。

(1)根三町が国土庁「水の郷百選」に認定されました記念に茶茗鋸と昔

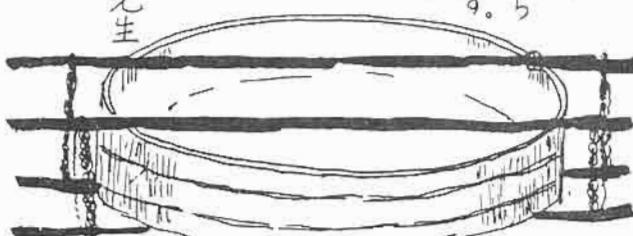
樽舟が運行した大井川で、イベン

トが催され、大勢の人々が乗車みました。盤舟に乗つたり、大井川

の歴史とロマンの講話を中村肇先生

(樺原高校教諭)にお聞きしたり、

有意義な一日となりました。



→ 2m余 ←
深さ 60cm.

定期購読のお願い

中川根ふる里通信は有料発行です。

1部 テ共 150円

皆様の定期購読がふる里通信の発行を
支えます。年間4回の発行(季刊誌)を
予定しております。今回で購読の切れる方、
初めてふる里通信をご覧になられる方には
郵便振替用紙を同封致しますから
引き続きご購読をお願いします。
年間予約 600円 (150円×4回)のご送金を
おすすめしますが、3年分位(1,800円)
でもお預り申上げます。

購読を止めたい時や 住所変更のおりも
是非ご連絡下さい。

郵便払込通知票 00870-4-81556

加入者名 中川根ふる里通信係

ふる里通信に関する問い合わせ先・及
発行責任者 テ428-03

静岡県榛原郡中川根町上長尾859-6

小沢節子

TEL 0547-56-0015

アトランタオリンピックのあのさわめきも、高校野球の熱狂も夏の終りと共に遠くへ行ってしまった気がします。虫の音にさわめきも加わって秋がやって来ました。木犀の花の香が風に乗ってほのかに香ります。茶どころ川根には稻穂が見うれるところは限られておりますが、地名の田んぼは黄金色に色付いています。大井川には今夏も川遊びやアユ釣りに来た人が大勢で、今はヤナ漁も始まりました。昨年の様に猛暑ではなく、雨も時々降り生物にやさしい夏でした。秋の訪れは早いようです。皆様のところはいかがですか。

中川根高校のセミナークラスにおいて、静岡県立大学との公開講義(座)が開かれております。県下初めての試みです。講師は高木桂蔵先生を中心とした富田勲先生など県立大教授の方々です。受講生は地域社会人と専門分野を学びたい川高生で五十人強です。九月から三月まで月一回第三土曜日で七回とのことです。年令をこえて同学・建学の精神を持ち続けたいものですね。さうなる発展を期待します。

ここにちは、近頃だいぶ涼しくなってきましたが、いかがお過ごしですか? 夏休みにはラジオ体操アルミ缶回収に大勢の方の御協力本当にありがとうございました。

とこうございました。

さて、今年も中川根中で体育大会が行われます。君の努力、認め合う心、笑顔が結ぶつながりのストロークがんにも書かれているようにつながりを深めるために地域の方にも参加してほしいと思います。プログラムの中には地域の方々と一緒に行う競技もあります。車椅子の方からお年寄りお子様まで誰でも参加できます。

ぜひ中の中の体育大会に参加して下さい。

中学生全員で待っています。

この様な手紙をえた体育大会招待状が生徒諸君の手で各家庭へ届けられました。ほのぼのと一緒に温かい便りでした。忘れかけていた恩の想い遣りの心をよびもとしてくれた元がします。祈健斗。

